



アパレル業界におけるSDGsの取り組み

●生産によって生じる環境汚染

1枚の衣類を作るにあたり、CO2の排出量が約25.5kg（500mlペットボトル 約255本製造分）、水の消費量が約2300l（浴槽約11杯分）。

このほか、原材料の調達でも以下の負荷が発生しています。

- ・天然繊維（コットンなど）の栽培：水の大量消費、肥料による環境汚染
 - ・合成繊維（ポリエステルなど）の生産：石油の使用、生産工場でのCO2排出
- SDGsの目標のなかには環境保全に関するものがあることから、アパレルの生産過程で起こる環境汚染などについても関心が高まっています。アパレル業界は、国連貿易開発会議（UNCTAD）によって、世界で第2位の環境汚染産業とみなされています。

●大量生産による廃棄物の発生

ファストファッションの台頭により「流行の服を手頃な価格で購入する」という傾向が強まるようになりました。

日本では、1990年代後半にファストファッションブームが訪れています。

現状、日本では一人あたりの1年間の衣服の平均購入枚数が約18枚、手放す服が約12枚、着用されない服が約25枚です。

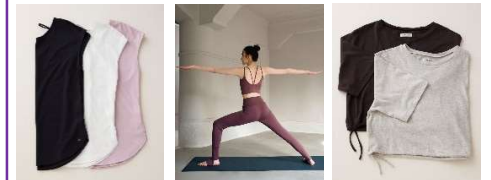
また、1年で供給される衣服は81.9万tあり、その78.7万tが1年で手放されているという現状があります。衣類をごみとして処分するにあたり、焼却や埋め立てを行うため環境に負荷がかかります。



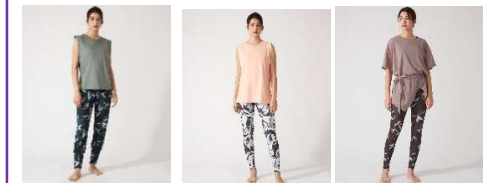
衣類の廃棄を減らすためには「大量生産・大量消費・大量廃棄」のリニア型から「適量生産・適量購入・循環利用」の循環（サーキュラー）型の生産モデルへと切り替える必要があります。

【Realstone2024SS】サステナ素材

Realstoneの2024SSは、前シーズンから引き続きオビベジ(タマネギで染色)、リサイクルポリエステル素材コットン50%+レーヨン50%のエコフレンドリー素材を継続使用しています。



また、サステナ素材だけでなく、長く、大切に着ていただけるように“コーディネートしやすいデザイン”を意識しています。ECサイトやSNSでは、コーディネート画像を充実させており、以前の商品やお手持ちの商品とのコーディネートイメージが湧くような提案も行います。



2024AWではココナツの繊維を使用した素材を使用予定です。Realstoneの更なるチャレンジをお楽しみに！



今月のこの人
営業部
岡 まりなさん

私は元猟犬の保護犬を2匹飼っています。同じ犬種は猪や鹿を狩るのがメインです。ただ猪や鹿は害獣と扱われ、猟師さんたちに捕獲されたら破棄されるエリアが多いみたいです。インスタで友達になった南伊豆の猟師さんは、命を人間のせいで捨てるのは…ということで狩った獲物を自分たちで捌き犬たちのオヤツに加工し、販売してくれています。その売上は保護団体へと寄付しており、私もそこでオヤツは買うようにしてます！無添加で素材の味なのか食いつきがハンパじゃない笑本来捨ててしまうものを、自分たちの手で加工し販売、保護団体に寄付…命のSDGsだなあ～



* 次回はこの人 富田祥平さん

～編集後記～ 皆様からの情報、アイデアお待ちしております！

今、社をあげて取り組んでいるSDGsですが、『こんな取組できないかな？』とか『〇〇の情報をグループ全体で共有して欲しい』などのご意見がありましたら、お近くのメンバーまでお待ちしております。